



### なぜ感染したのか、ではない

「人は目に映ることを見るが、主は心によって見る」 サムエル記上 16・7b

かつて日本では、薬害による被害者を“グッド・エイズ”、それ以外は自業自得で感染したのだから“バッド・エイズ”とし、薬害エイズの被害者のみに救援の手を差し伸べるといった愚かな法案を一時、施行しました。

私たち人類は、HIV/AIDSのみならず、あらゆる事柄(年齢、性別、性的指向、人種、民族、言語、階級、宗教、障害など)に対して意図的／無意識のうちに〈区別〉をしてしまいがちです。それが〈区別〉にとどまっているうちは、そう大きな問題に発展することはあまりないのですが、多くの場合は〈差別〉に発展してきた例をいくつも経験しました。

差別の背景には、人種や宗教への態度、ジェンダー(社会的・文化的な性のありよう)の力関係、セクシュアリティへの態度、価値観の異なるグループへの見方などの文化・制度・慣習・社会的構造があります。

「なぜ感染したのか？」この言葉にどんな重要な意味があるのでしょうか？  
時にはこの言葉が相手を責め立て、病気と闘う意欲を奪ってしまうのではないのでしょうか？病気やウイルスは人を選びません。区別し差別するのは、人の心ではないのでしょうか？

病気に対する無知、ストレス、不安、パニックなどが偏見・差別を生みます。HIV/AIDSについて学び、理解を深めること、感染経路で区別・差別をせず、〈病を得た隣人〉として寄り添うことが今、私たちに求められています。